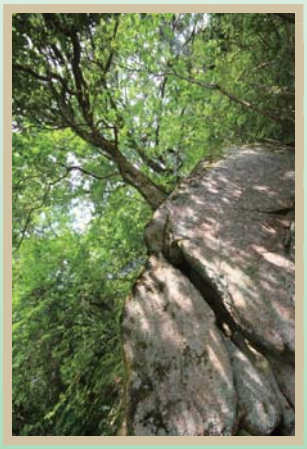
平成26年度

森林（もり）の調査隊!!
フォトコンテスト

入選作品カレンダー

2015.4-2016.3



主催：林野庁　近畿中国森林管理局 箕面森林ふれあい推進センター
後援：近畿農政局/京都府/京都市/公益財団法人森林文化協会/公益社団法人日本写真家協会/
日本風景写真協会/公益社団法人全国高等学校文化連盟正会員団体高等学校文化連盟全国写真専門部/
里地ネットワーク/公益社団法人京都モデルフォレスト協会/京都伝統文化の森推進協議会/
朝日新聞京都総局/毎日新聞京都支局/京都新聞/NHK大阪放送局/ＫＢＳ京都

局　長　挨　拶

近畿中国森林管理局長
青木　庸三

平成２６年度森林（もり）の調査隊！！フォトコンテストの最終審査会の開催にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

本日は、最終審査に選ばれた３０作品の応募者の中から２３作品の応募者の方にお集まりいただきました。遠くは沖縄県石垣島から、また長野県や山口県など、２府６県の方にご参加いただいております。大変ありがとうございます。この後、発表をしていただきますが、皆さんの作品への思いを聴かせていただくことを楽しみにしております。

そして、発表者の作品を審査していただくために５名の委員の方にお集まりいただきました。写真の専門家、森林の専門家、昆虫の専門家、活動の専門家など、広い知識と感性をお持ちの方に審査をお願いしております。どうかよろしくお願いいたします。

また、この会場は、昨年に引き続き、重要文化財の指定をされている清水寺「経堂」をお借りして開催しております。皆さんにとっても非常に貴重な体験だと思います。

清水寺の皆さまの、ご支援・ご協力をいただいておりますことに感謝申し上げます。

さて、私ども近畿中国森林管理局は、日本の国土の２割を占める国有林の内、石川県から山口県まで、２府１２県の国有林を管理経営する組織です。

地球温暖化防止や生物多様性の保全など、森林の働きを高める公益重視の管理経営を一層推進しつつ、森林・林業の再生、地域振興などに貢献し、「国民の森林（もり）」国有林として取り組んでいるところです。

政府の成長戦略の中で林業が成長産業のひとつとして位置づけられ、木材利用の拡大の取組や地球温暖化防止対策として、森林の機能発揮も求められているなど、森林への関心も高まっています。

そうした中で、国民参加のもりづくりと多様な利用の推進にも取り組んでおり、森林体験等の森林環境教育や里山林の再生などの活動への支援にも取り組んでいるところです。

森林は、木材としての利用の外、水や空気の「源（みなもと）」であり、災害から守ってくれる保安林機能やハイキングなどで、こころと身体をリフレッシュさせてくれる効果、動物・昆虫・植物などが生きていく場所としての生物多様性の保全など、森林は非常に多くの役割を果たしてくれています。

このフォトコンテストの趣旨は、森林や里山に目を向けていただき、「森林（もり）」に棲む生き物や「森林（もり）」の中での活動を通して、感じた思いを共有すること。そして、森林への関心と理解を深めていただくことに繋げてもらうこと。そしてその思いが広がっていくこと。だと考えております。

本審査会での、皆さんの発表が、さらに次のステップに繋がっていくことを期待し、開会にあたりまして、主催者を代表してのご挨拶とさせていただきます。

本日は、よろしくお願いいたします。

（最終審査会の開会挨拶より）

審査員講評

青山 佳世 氏（フリーアナウンサー）

今回も本当に素晴らしい作品を楽しませていただきました。私はテレビを通じて話す仕事をしてきましたから、今回はその視点から2点コメントさせていただきます。毎年同じ様な内容ですが、毎回同じ課題があります。1つはプレゼンテーション・写真の構成の仕方について、もう1つはプレゼンテーションの仕方についてです。

まず構成の仕方についてですが、私が長年やってきたのは写真ではなく映像ですが、気持ちは同じだと思います。沢山撮った映像の中から編集していきますが、編集の時にはアップ（クローズアップの映像）、アップ、アップが続くことはありません。俯瞰（全体を映した映像）、俯瞰、俯瞰が続くことはありません。どういうコメントをつけるかにもよりますが、広い画があって自分がはっきりと言いたいアップの写真がくるのか、最初はインパクトを持ってアップを写して、全体の映像を写すか。3枚の並べ方も、アップ、アップ、アップではどういう場所で撮ったのかが分かりません。俯瞰、俯瞰、俯瞰だと何を一番言いたいのかが伝わってきません。3枚をどういう順番で俯瞰とアップを並び替えていくかをぜひ考えていただきたい。

写真とコメントが連動していきますが、今回のプレゼンテーションの中にも1枚目はこうです、2枚目はこうですと、1枚1枚の写真の説明になっていた方もいらっしゃったと思いますが、やはり、これがストーリーとして成り立つように、ストーリーの中に1枚1枚の説明が織り込まれていくと、聞いている人達に皆さんの思いが良く伝わります。

写真はどういう並びにして、ストーリーと説明を組み合わせるかを考える。もう一つはストーリーを先に考えて写真を組み合わせるケースがありますが、その場合選んだ写真が、あまり関連性のない場所のものを並べると主張が薄くなってしまうことがありますから注意をしてくださいね。

それからもう一つはプレゼンテーションの仕方についてです。

皆さん達の思いはとても良く伝わりました。それぞれの声があり、方言や話し方がありますが、まずは、ハキハキと明快にお話することを心がけてください。下を向いてもごもごと話をすると、どんなに素晴らしい思いがあっても、聞いている人達に伝わらないことがあります。間違えてもかまいません、間が開いてもかまいませんので、話す相手の方をきちっと見て話してくださいね。原稿を見ていただいても結構ですので、原稿を見ながらでも時々話をする相手の方に向かって話しをすると、皆さん達の思いがより伝わると思います。

これからも、森林への感謝を込めて様々な活動を続けていただきたいし、それを写真に納めることで、より多くの人にもその思いを伝えていただければと思います。また来年もぜひ参加してください。

久留飛 克明 氏（大阪府箕面公園昆虫館館長）

昆虫館の久留飛です。写真の事は素人なので、他の先生におまかせしましたが、昆虫館の立場からすると表現をする力が一番大事だと思っています。

今特に昆虫のことをきらいになる子供達や大人が増えていて、なんとかうまく伝えていきたい。そのためにはどうしたらいいかいつも思っています。

今日のフォトコンテストも同じ事だと思います。撮られた方の話を聞くと、そんな思いで撮ったという事がよくわかります。それが写真になって出てきていたら、ほんとは良いのに、というのが少し残念です。ということは、思いというものは形にしないと伝わらない。特に展示をしている立場からすると、こんなつもりで作ったけれどと、いくら言われても、物として表れていないと受け手に伝わらない。そういうところで、もう少し粘って欲しい、もう少しこれがあればいいなという作品がたくさんあり、思いがあるけれど形がね、というのが少し残念な感じがします。

こういうことをきっかけに自然の山に行きいろんなものに出逢って、そこで思いもよらないものを見つけて写真を撮るという、計算された中ではなく、自然の中ではチャンスは1回しかないと思っています。いろんな事に興味をもって出かけて行くと、これはいいじゃないかという出逢いがあると思います。そういう意味でフォトコンテストをきっかけに昆虫の事も含めて自然のいろんな事を楽しんでほしいと思っています。これが長く続くといいと思っています。これからもよろしくお願いします。

審査員講評

久山 慶子 氏（フィールドソサイエティー事務局長）

今日はたくさんのすてきな写真を見せていただき、また思いのこもったプレゼンテーションも聞かせていただき、楽しいひとときを過ごさせていただきました。

私は「法然院森のセンター」を拠点に、清水寺からも連なる東山の森をフィールドとして１９８５年に始まった「法然院森の教室」を母体とした環境学習活動に携わっています。子供達と一緒に森にでかけること、また大人の方々と一緒に森の手入れをすること、その二つが大きな柱です。活動をしながらいつも、活動すること自体が目的になってはいけない、そして楽しむだけでもいけないと感じさせられています。では、もう一押し何が必要なのか、それが、皆さんが写真で表したかったこと、表そうとされたことなのかもしれないと、プレゼンテーションを聞かせていただきながら考えていました。

それは、私達人間も森のおかげで命を繋げてきた、森林に強く依存した生きものであることを思い出すということです。森には本当にたくさんの生物がいます。小さな昆虫、鳥、哺乳動物、菌類、それから植物たち。おひさまの光、水、土壌など生命の要素に支えられながら、目に見えるものから見えないものまで一つ一つの命が、様々な関係の中で生きています。だからこそ、私達人間も森の恩恵にあずかる生きものの一員であるという事実に、何度も何度も気付き直しをしなければならないのでしょう。

ところが、やはり現代の都会暮らしでは、このことを人々と共感しあったり、心の中で温めたりすることは難しくなるばかりです。そんな中、森の大切さ、森に生かされていることの大切さを共有しようというテーマで開催されているこのフォトコンテストはとてもすてきな催しであり、応募された方々の思いこそ尊いと、発表を聞かせていただきました。

どの作品にも、写しておられる目と写されている環境や生きものたちの今が感じられて、人と森という原点に立ち返るとても良い時間だったと思います。写真は、様々な気持ちや願いを見る人の心に響かせることができます。これをきっかけにどんどん森に出かけて、また命の営みを伝えてください。

只木 良也 氏（農学博士 ・ 京都府立林業大学校校長）

私も実は８０才を超しましたが、２０才のころから６０年写真を撮り続けています。森の写真をずっと撮ってきました。リバーサルフィルムでカラー写真です。今はさすがにデジカメになりました。

フィルムのころにはフィルムがもったいなくて、そんなにたくさん写せませんでしたが、デジカメになってからたくさん撮って、その中から良い写真を選ぶので、このフォトコンテストの応募も楽になったかと思いますが、皆さん熱を入れて一生懸命写真をお撮りになられたのがよく分かります。

私として申し上げたいのは、今年からできた1枚写真の部門は、いい被写体で良いアピールがあり、１枚でものを言うので言うことはないです。

しかし３枚組みの方は、３枚の意味を良く考えてください。せっかく３枚あるのだから、大切なのはストーリー性だと思います。起承転結、何を言いたいのかを出す。私が毎年言っていることですが、このフォトコンテストのポイントだと思います。

それともう一つ、主催者がどこか考えてください。森林管理局のコンクールなのです。今年はあまり該当はありませんでしたが、木が１本も写っていない写真が３枚組、そういうものではなく、写っている対象は木なり森なり、主催者が誰かを考えていただけると来年から楽しいものが続くと思います。

私も京都に縁がありますが、清水寺から清水の舞台の横を通って裏山へ上がるとお城の跡があることなど知りませんでした。今は国有林ですが、----じつはこのお城は足利幕府の終わり頃、戦国時代の始まる頃に京都の町を取り囲む東山から西山まで、お城がたくさんあったものの一つなのです。いざという時に武家が逃げてきたり、あるいは地元の豪族などが非常用にお城を築いた。戦国時代に平地では攻められるので、京都を取り巻いて、山の上に山城を築いた。掘っ立てにちょっとした櫓程度のものですが、現在分かっているだけで、４２箇所あるそうです。信じられますか。この裏を上がってももう「城」はありませんが、痕跡はあります。このことつい先日知り、驚きましたので皆さんにお知らせ致します。考えてみれば、なるほど京都の昔の名前は「山城」の国でした。

審査員講評

北田 研索 氏（写真家・宝塚大学特任教授）

「平成２６年度森林の調査隊!! フォトコンテスト」全応募作品の第1次選考と、最終審査に残った「身近な森で見つけた動植物部門」１０点「森林と人の関わり部門」１９点について写真から見た立場で賞を決める審査をしました。

最終審査は私を含め各分野５人の専門家と主催者の６名が、１作品に付「写真表現力、映像の美しさ」２点、「題材の選択性」３点、「作品に対する想いの発表」３点の計８点で採点し、特に３番目は、付けられたコメントや清水寺経堂公開プレゼンも加味した上で各賞を決めました。

結果、賞対象１０作の評価点差はわずか４点で、比較的粒ぞろいの物が集まった感があるのですが、別の意味では突出した作品が少なく、選ぶ側では大変悩ましい審査でした。

今回、「身近な森で見つけた動植物」部門に幼稚園児からの応募が１点あり、応募規定に小･中学生対象とあるのですが、主催者･審査員で協議をした結果、作品レベルも高く特例としてエントリーを認める事にしました。ただ、幼稚園児だから審査員特別賞になった訳ではありません。その部門最終審査に残った作品の中では写真内容が一番おもしろく、審査員全員が賞に値すると判断した事を付記いたします。

「身近な森で見つけた動植物」部門で一次を通過の１０作品の内、花を写した物も含め５点が風景写真です。その様な撮影で気をつけてほしいのは、構えたカメラのファインダーやライブビュー画面の隅々までよく見てほしい事です。自分が撮りたい物以外に余分な物が入っていないかしっかり見てシャッターを切って下さい。自分が撮ろうと思った綺麗な花や遠くの山に視線が集中してしまうと、それしか頭の中で見えなくなり、本当はもっと広い景色の画面になっているのに気づかず、出来た写真が思っていた物とかけ離れた物になってしまいます。写してすぐにモニターで画像が確認できますから、自分が見た物がどう写ったか判断してください。そうすればもっと良い構図（アングル）がきっと見えてきます。

「森と人のかかわり」部門は３枚組の写真で自分の考えを主張しなければなりません。各写真には１～３の番号が付いていますが、一次審査の時から気になったのは３枚の写真をどう見せるかが上手く出来ていない事です。一番始めに何を見せ、二番目はこのシーンで、三番目はまとめとしてどう見せるかを考え、組写真を構成してほしいと感じました。良い写真なのだけれどならべる順番が違うのではないかとなると、作品評価が下がってしまいます。その点、林野庁長官賞・里山賞になった作品は何を見せ、伝えたいかを的確に表現出来ていたと感じます。

また、応募作に付けられたコメントや最終審査の公開プレゼンでも「作品にはないあんなシーンも見た、こんな事も見たけれど・・・」と説明するケースがありましたが、それを私たちは写真で見たいのです。

以上のような事も踏まえて、次回も皆様から沢山の力作をお待ちしていますので、よろしくお願いします。

各賞へのコメント

林野庁長官賞　「森林と人の生活」　大河内　一宏

深山に降る雨や雪は地下で水脈を作り、やがて森の中で地表に吹き出し泉となり小川となって人々の生活に恵みを与えます。作者は訪れた大山･隠岐国立公園中蒜山裾の谷間に湧き出る水温１１度の名水「塩釜冷泉」とその周辺風景に目を止め、冷泉をメインにそこから流れ出る水で回る観光用らしい苔むした水車小屋に昔の農作業の思いをはせ、森を拓き作られた広大な公園の巨石彫刻群に新たな人と自然の関係を想う３カットで、泉にまつわる伝説から現代、そして未来に到る「人と森林のつながり」を構成しました。（北田氏）

森の水源をテーマに古今の人間の造作を写し、タイトルで水無くしては人も暮らせないことを表現されて、水の恵みを感じることが間接的になっている私たちの価値観を様々に問うてくる作品でした。（久山氏）

このテーマを的確に表現する具体的なものは水。蒜山で昔から活用してきた湧き水は、現代全国の名水百選にも認定の冷泉(１枚目)。飲み水だけではなく、水車は古来の動力源でもあり(２枚目)、そして現在は、地域一体、レクリエーションなどを通じて人々の生活に寄与。もとを正せば森林の恵み。歴史的時間の経過を通じたストーリー表現に成功。（只木氏）

里山賞　「ちょっと大人になったよ!!」　隅　里子

林業女子会とかツリークライミングとか、私には初耳の言葉だったのですが、今、女性の視点から林業の魅力を伝える事を目的とするこの組織が全国で展開されています。２０１４年７月に結成されたばかりの林業女子会@山口では「森で笑おう、森で会おう」をテーマに安全な装具を身に付け木に登り、森や自然に親しむツリークライミングを企画。大きなクヌギに尻込みしていた子供たちも、楽しそうな大人の姿を見て「僕もやりたい！」。１本の木を通しての親子の交流や自然と親しむ姿が楽しく記録されました。（北田氏）

ハラハラしながらツリークライミングをする子どもの表情が捉えられています。その体験が、風の音や鳥の声、木々の香り、そして人の温かみを幼い心に贈ってくれることを願わされました。（久山氏）

審査員特別賞　「裏山のカモシカ」　大井　椋介

お父さんに誘われて行った金沢市郊外の高尾山。７００㍍ほどの頂上を目指していたら突然カモシカと遭遇。驚かさないようにとそっとシャッターを切ったつもりだけれど、手ブレした画面が逆に大井君の驚きと感動を見る人に伝える一枚になりました。いわゆる決定的瞬間を撮った君は凄いです。（北田氏）

近くにカモシカが住んでいるなんてとてもワクワクします。それを写真に撮るとは、なかなかのものです。自分が見た気持ちを伝えるには写真で説明するとわかりやすいですね。これからもそんなチャンスをものにしてください。（久留飛氏）

各賞へのコメント

近畿中国森林管理局長賞　「ぼくのすきなセマルハコガメ」　武田　草太

　石垣島野底の自然を撮ろうと、愛犬ルルと一緒に近くの山に出かけた武田君。ルルがすぐに何かを見つけました。以前も蛇の卵を見つけたので見に行くと天然記念物のセマルハコガメが２匹います。この亀は驚くとぴったり甲羅を閉じ箱のようになってしまうのが特徴で、顔を出すまで２０分も待って撮った写真だそうです。以前は沢山見かけたセマルハコガメも環境の変化や交通事故などで激減。ネットで見ても１匹だけの写真ばかりで、２匹同時に撮れたのは凄いですね。（北田氏）

　私も学生の時に沖縄に旅行に行き、出会ったことがあります。「自然」を説明するためには、そのカメがそこで何をしているのかが表現できたらもっと素敵な出会いになると思います。これからも自分で感じた「自然」を伝えて下さい。期待しています。（久留飛氏）

近畿中国森林管理局長賞　「森を見つめる小さな瞳」　小倉　玲

　小さな生き物が大好きな理由は、その命も自分と同じ一つの命だと考える小倉さん。月に一度の山に登って野鳥やキノコを観察する会で、一匹の小さなカエルに出会いました。地球温暖化･大気汚染･外来種による森の変化を自分は分からないが、いつも森を見ている彼ら森の住人たちは身近な環境の変化に気づいているのではと思い、シャッターを切りました。その小さな瞳がどんな思いで毎日木々を眺めているのかを、皆に考えてもらいたいこの一枚。素晴らしい作品です。（北田氏）

　カエルがどんなところにいるのか写っていたらカエルの気持ちが伝わってきたかもしれませんね。「自分の目の前に生きているカエルがそこにいる」ことの気づきを大切に、これからも「生きている」ということを追求するといろんなことがわかってくると思います。期待しています。（久留飛氏）

　森の伏流水でのオタマジャクシ時代を終えて、林床に出たタゴガエルが背後から捉えられています。小さなカエルの影や前方を向く眼差しに、一匹のカエルが無事に育ち命をリレーしていくためにどれほどの条件が必要であるのかを語りかけられました。（久山氏）

近畿中国森林管理局長賞　「健気に生きる」　川口　智史

　現役時オオヤマレンゲの保護柵の設置になどに携わり、現在森林インストラクターとして活動続ける作者が、山深い大峰山系でシカの食害や厳しい雪の季節にも耐え、春先まさに健気に咲き芽を出す花や木を優しい眼差しと、しっかりしたレンズワークで切り取りました。３枚全てを花の写真にせず、２枚目を地面すれすれに構えたトウヒの稚樹のアングルと狙いが素晴らしく、この組写真を成功させました。（北田氏）

　１枚目オオヤマレンゲ、３枚目シロヤシオ、共に山中で出会うとホッとし、一種の興奮も覚える花。シカの食圧(実際はシカ不食の植物?)にも耐えて・・・。２枚目の健気さは，倒木の上の更新。頑張って生きているように見える。死(倒木)から生(稚樹生育)、輪廻転生の具体例？として、降水量多い日本によく見られる現象ながら、気付く人は案外少ない。その点を評価したい。写真はトウヒの稚樹と思われるが、実際は倒木上は、土の上より、菌害が少なく、稚樹の生育を容易にするとも言われている。（只木氏）

近畿中国森林管理局長賞　「貴重な里山『待兼山』の緑を守る」　青野　倫太郎

　大阪に住む私にとって、待兼山というと阪急電鉄石橋駅から徒歩１５分の高級住宅地に囲まれた大阪大学豊中キャンパスと思っていたのですが、標高７７ｍの山が存在し、コメントの「都市部では貴重な里山」で、阪大から阪急電車を挟んだ西側にある大阪府立園芸高校生が里山を守る運動をしていることに驚きました。写真自体の評価は低いのですが、テーマとする待兼山に自生のクヌギやコナラを枯らすカシナガとその森林害虫防除が他の昆虫や生物に与える影響等も含め、都会に隣接する里山を保護考察する試みは大変意義のある事で、今後とも継続してやっていただきたいと思います。（北田氏）

　今日大課題のナラ枯れ防除の課題。ムード論でなく、科学的に取り組む姿勢の紹介で、教育的意味も持っている。そこで大切なことは、人から教えられた方法を現地適用するだけでなく、方法の良否、捕獲昆虫の調査などその効果の分析にも努める姿勢、を評価したい。（只木氏）

各賞へのコメント

近畿中国森林管理局長賞　「森と遊ぼう」　中前　照美・浦西　美津子

奈良県で初の「森林セラピー基地」に選ばれた吉野町で、「森と遊ぼう」活動に取り組む幼稚園児と森林セラピストの記録です。木と木の間にセットされたハンモックで遊んだり、落ち葉でフカフカの山道の駆けっこ、竹笛の吹き方を習ったりと、皆の身近にある大きな森の中での３枚の楽しい写真からは、元気いっぱい自然を楽しむ園児たちの歓声が聞こえてきそうです。（北田氏）

「森で」遊んでいる子どもたちの笑顔はまるで「森と」遊んでいるようだと、タイトルそのままに楽しさが伝わってきました。森林空間の利用の可能性はさることながら、人は森を感じて育つべきという大切な基本を思い出させてもらえる作品です。（久山氏）

近畿中国森林管理局長賞　「春近し」　松本　涼太

春にはまだ少し早い広島県吾妻山での撮影ですが、専門の先生によると１枚目の「根開き現象」は、雪の多い東北などではよく見られるが、中国山地では大変珍しいとの話です。今回その光景に出会ったことが大変幸運で、なお且つ写真３枚に共通して言える構図の良さがポイントになりました。１枚目はやや低めのアングルで雪のない地面と落葉樹の林を上手く見せ、２枚目は岩に絡む冬枯れの草木の中から出てきた緑と水の流れをスローシャッターで演出し、３枚目は水面に映る樹木にまだ薄ぼんやりした太陽を写し込むことで近づく春の足音を上手く表現した作品になりました。（北田氏）

『根開き』。早春の陽光受けて樹木が温まり、その温度で木の根周辺から積雪が消えてゆく現象で、季語では「木の根明く」とも言う雪国ではありふれた現象ながら、正直言って広島にもあること知らず。よく見つけてくれました。２枚目早春の谷川、３枚目春近しとはいえ、まだ冬の色濃い池畔、共に雰囲気よく出ていて・・・。（只木氏）

近畿中国森林管理局長賞　「岩立樹（がんりつじゅ）」　安部　龍正

島根県奥出雲町の斐伊川支流にある国の天然記念物鬼舌震(おにのしたぶる)は、急流に浸食されたＶ字峡谷で、切り立った絶壁と、無数の巨岩が重なる中を流れる川が特異な景観を作り出しています。そんな場所で安部君が初めて見た光景は、土の上ではなく岩と岩との小さな隙間に根をしっかり張る木々たちでした。まるでそこに立っているように力強く生きる一本一本の木の、人間同様のその場所・その環境に合った生き方に感動しシャッターを切った気持ちが良く出ている作品になっています。（北田氏）

「鬼の舌震い」という地名から何か由緒を感じる撮影現場。岩石のすき間に根を張って生きる樹木や草々の生命力。一般人の気の付き難い特殊な立地と植物に着目したこの３枚の写真。そして、それから「その環境、場所、今と言う時を生き抜く力強さ」を感じてくれた高校１年生の撮影者の今後が楽しみ。（只木氏）

平成 26年度
「森林の調査隊 !! フォトコンテスト」　入賞作品一覧

林野庁長官賞

【森林と人との関わり部門】
「森林と人の生活」　大河内　一宏（大阪市）　8月 August

里山賞

【森林と人との関わり部門】
「ちょっと大人になったよ!!」　隅　聡子（山口県岩国市）　9月 September

審査員特別賞

【身近な森で見つけた動植物部門】
「裏山のカモシカ」　大井　椋介（石川県金沢市）　4月 April

近畿中国森林管理局長賞

【身近な森で見つけた動植物部門】
「ぼくのすきなセマルハコガメ」　武田　草太（沖縄県石垣市）　1月 January

【身近な森で見つけた動植物部門】
「森を見つめる小さな瞳」　小倉　玲（京都市）　1月 January

【森林と人との関わり部門】
「健気に生きる」　川口　智史（奈良県橿原市）　7月 July

【森林と人との関わり部門】
「貴重な里山『待兼山』の緑を守る」
青野　倫太郎(大阪府立園芸高等学校)（大阪府池田市）　11月 November

【森林と人との関わり部門】
「森と遊ぼう」　中前 照美　浦西 美津子(奈良県吉野郡吉野町)　5月 May

【森林と人との関わり部門】
「春近し」　松本　涼太(広島県立庄原格致高等学校)（広島県庄原市）　12月 December

【森林と人との関わり部門】
「岩立樹（がんりつじゅ）」
安部　龍正(広島県立庄原格致高等学校)（広島県庄原市）　6月 June

4 2015 April

1 水
2 木
3 金
4 土
5 日
6 月
7 火
8 水
9 木
10 金
11 土
12 日
13 月
14 火

審査員特別賞

【身近な森で見つけた動植物部門】

裏山のカモシカ　大井 椋介（石川県金沢市）

（メッセージ）
「裏山登山に行こう」とお父さんが言ったので、家から近い高尾山というところに行きました。
山を歩いていると、後ろから「ガサガサ」と音がしました。振り向くと、目の前に黒いものが僕たちの進む道の前に飛び出しました。
「カモシカだ！」とお父さんは言いました。突然だったのでビックリしました。
カモシカを驚かさないように静かにしていました。そのときに、写真を撮りました。
しばらくじっとしていると、ゆっくりと動いて、道をあけてくれました。
「ありがとう。」と僕たちは声をかけて静かに通り過ぎました。

●撮影日：H26.5.17　●撮影場所：石川県 高尾山　●撮影した動植物の名前：カモシカ　●カメラ機種：Canon IXY

15 水
16 木
17 金
18 土
19 日
20 月
21 火
22 水
23 木
24 金
25 土
26 日
27 月
28 火
29 水 昭和の日
30 木

H26年度 森林の調査隊フォトコンテスト　最終審査会

○開催日：平成26年11月3日(月･祝)　○開催場所：京都市東山区清水寺「経堂」

清水寺執事長の挨拶

屋外での作品展示

近畿中国森林管理局長賞

【森林と人との関わり部門】

森と遊ぼう　　中前 照美　浦西 美津子(奈良県吉野郡吉野町)

（メッセージ）
桜の名所の吉野町は平成２４年、奈良県下で初めて『森林セラピー基地』の認定を受けました。その町に住むわかば幼稚園の園児たちは、森林セラピストの阪口榮治さんのご協力を得て、『森と遊ぼう』の活動に取り組んでいます。森の中で、ハンモックや崖登りなどをして遊んだり、『龍門の滝』を目指して山道を登ったり、毎回楽しいことがいっぱい！
森の自然に負けないぐらい、園児たちの素敵な笑顔もいっぱい！

① 友達と一緒にハンモックに乗り、ユラユラ・・・。バランスを崩して転げ落ちても、みんななぜかニコニコ！
② 森の中を友達と思いきり走っています。落ち葉の上は、フカフカして走るのが楽しいよ！
③ 阪口さんに竹笛の吹き方を教えてもらいました。うまく鳴るかな？みんな興味津々。僕も、私も早く吹いてみたいなぁ。

ニコニコ笑顔あふれる『森と遊ぼう』。心も体も元気いっぱい！大きくなっても、この自然とふるさと吉野を大切にする人になってほしいなぁ・・・。

●撮影日：H26.6.10
●撮影場所：吉野町山口（坂口様私有地の森）
●カメラ機種：Canon EOS 5D マークⅡ

写真①

5 2015 May

箕面の動植物

フタリシズカ

箕面の動植物

白い猿の親子

1 金
2 土
3 日 憲法記念日
4 月 みどりの日
5 火 こどもの日
6 水 振替休日
7 木
8 金
9 土
10 日
11 月
12 火
13 水
14 木
15 金
16 土
17 日
18 月
19 火
20 水
21 木
22 金
23 土
24 日
25 月
26 火
27 水
28 木
29 金
30 土
31 日

写真②

写真③

近畿中国森林管理局長賞

【森林と人との関わり部門】

岩立樹(がんりつじゅ)

安部 龍正
(広島県立庄原格致高等学校)(広島県庄原市)

写真①

写真②

●撮影日： H26.6.14
●撮影場所：島根県奥出雲町 鬼の舌震
●カメラ機種：Canon EOSKiss X6i

6 2015 June

箕面の動植物

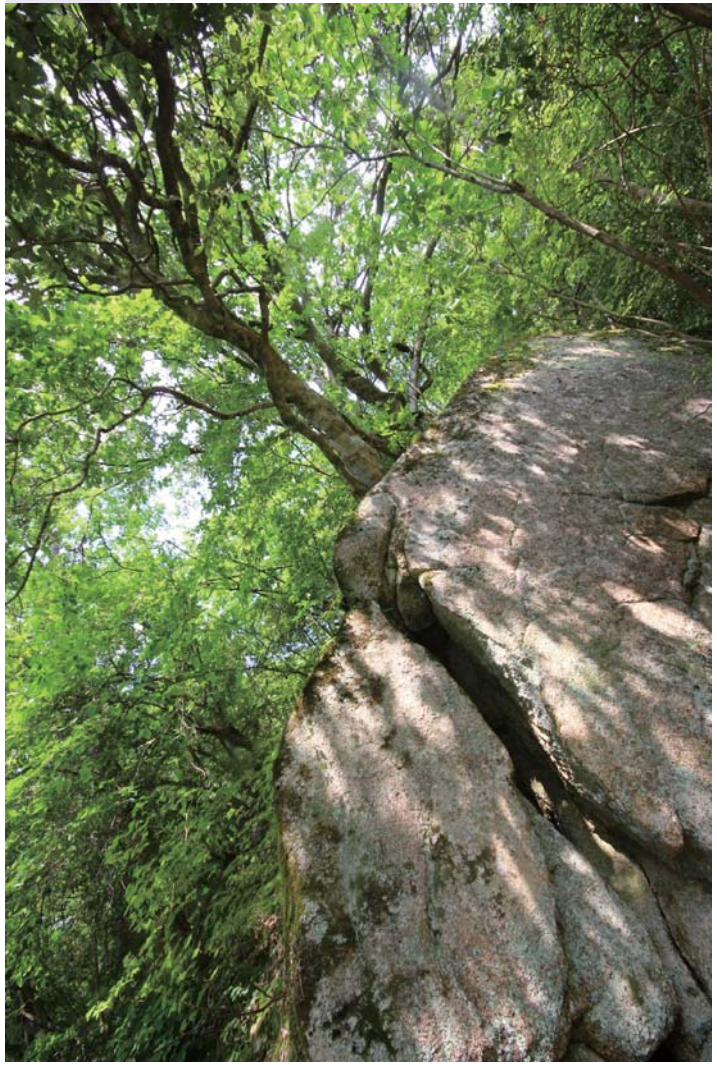
モリアオガエル

箕面の動植物

ツバメシジミ

1 月	17 水
2 火	18 木
3 水	19 金
4 木	20 土
5 金	21 日
6 土	22 月
7 日	23 火
8 月	24 水
9 火	25 木
10 水	26 金
11 木	27 土
12 金	28 日
13 土	29 月
14 日	30 火
15 月	
16 火	

写真③



（メッセージ）

これらの写真は、島根県奥出雲町にある鬼の舌震という自然豊かな場所で、６月半ばに撮影したものです。その場所には、自然を感じさせる木々やコケ類などの植物や大きさ、形の異なる岩や石などがたくさん存在していました。

近年では、都市開発の影響により、木々が伐採され、自然を感じさせる森林が徐々に破壊されてきているのが現状です。そんな中、撮影地では、岩の上に聳え立つ樹木があり、太陽の光が差し込み、春らしさを象徴する緑色、風が吹き、揺れる草や葉、そして何より、岩の上に力強く根を張っており、樹木や草花の生命力を感じました。小さな植物には小さな命があり、人間と同じように植物にも命があると改めて思いました。神秘的な光景を目にしました。普段見慣れた光景の中にある木々は土の上に生えていることがほとんどですが、今回のように岩と岩の小さな隙間から広範囲に力強く根を張っていることから、植物や樹木は、場所、環境にあった生き方をするのだと感じました。

また、コケや樹木に光が当たっている光景から、光を受けて成長し、たくさんの植物と光を分け合って共存し、人間と同様に、その環境、場所、そして、今という時を生き抜くという力強さを感じました。

7 2015 July

1 水
2 木
3 金
4 土
5 日
6 月
7 火
8 水
9 木
10 金
11 土
12 日
13 月
14 火

写真①

写真②

15 水
16 木
17 金
18 土
19 日
20 月 海の日
21 火
22 水
23 木
24 金
25 土
26 日
27 月
28 火
29 水
30 木
31 金

近畿中国森林管理局長賞

【森林と人との関わり部門】

健気に生きる　川口 智史（奈良県橿原市）

写真③

●撮影日：①②H26.7.12 ③H26.5.31
●撮影場所：①弥山から八経ヶ岳　②弥山　③釈迦ヶ岳
●カメラ機種：Canon EOS 60D

（メッセージ）大峯山系は古くから修験道の山として崇められ、多くの人に親しまれてきた。近年、シカの摂食被害が大きな問題となっており、とりわけ、弥山から近畿の最高峰八経ヶ岳かけてのトウヒ、シラビソの森林の存続が危ぶまれ、高山性の草花の姿を見ることも極めて少なくなっている。そうした中、健気にそして、明日に向かって生きる小さな姿に心をうたれた。

1枚目はオオヤマレンゲの花である。この花は明治28年に本草学者白井光太郎が楊子ヶ宿付近で再発見し「山中で天女に遭遇したで…」と云う言葉とともに世出た名花である。

その後、幾度か絶滅の危機に会いながらも生き延び、近年の保護活動の成果を象徴する花でもある。見る度に、天女に会う気持ちの高ぶりを感じさせられる。

2枚目は芽生えの写真である。トウヒの稚樹であろうか、倒木を覆う苔の床に育まれ、次代への更新を期待できる姿に明日への希望を感じさせられる。

3枚目はシロヤシオで、シカに負けずに強く生きている数少ない花である。

今年は例年になく花付きの良い年であったが、なぜか、垂れ下がっていた一枝に目がいき、胸飾りに見えた花の輝きが印象的であった。

林野庁長官賞

【森林と人との関わり部門】

森林と人の生活　大河内 一宏（大阪市）

写真①

写真②

●撮影日： H26.8.1
●撮影場所：①中蒜山・塩釜の冷泉 ②中蒜山 ③蒜山高原
●カメラ機種：Nikon D3100

8 2015 August

箕面の動植物

ウラギンシジミ

箕面の動植物

センチコガネ

1 土	17 月
2 日	18 火
3 月	19 水
4 火	20 木
5 水	21 金
6 木	22 土
7 金	23 日
8 土	24 月
9 日	25 火
10 月	26 水
11 火	27 木
12 水	28 金
13 木	29 土
14 金	30 日
15 土	31 月
16 日	

写真③

（メッセージ）

森林には、はるか昔から人の生活に関わってきました。森林には泉や小さな川もあります。人は森林の湧き水を飲み水として活用しています。この泉は昭和60年に全国名水百選認定された「塩釜の冷泉」です。東西１２m、南北５mのひょうたん型の小池から毎秒３００Lの湧水が、水温１１度で流れ出しています。この冷泉を伝説と結びつける話もあります。（写真1枚目）

水の流れを活用して水車を使って、揚水・脱穀・製粉・製糸などに広く使用されていました。現在でも少数ながら見ることができます。写真の水車は水苔が生えており。趣のある水車になっています。（写真2枚目）

また、最近では都会での生活が増えていますが、多くの人が森林でのキャンプに行くなど、森林との関わりを求めています。蒜山高原には、人による石の彫刻が多数展示されています。それぞれの展示物は人が森林との繋がりを模索して造られたものでしょう。森林との関わり方に、人が新たな試みとして取り組んでいる姿を見ることができました。（写真3枚目）

里山賞

【森林と人との関わり部門】

ちょっと大人になったよ!!　隅 聡子（山口県岩国市）

写真①

写真②

●撮影日：H26.9.20
●撮影場所：国立山口徳地青少年自然の家
●カメラ機種：Canon EOS kiss x6i

9 2015 September

箕面の動植物

きのこと青空

箕面の動植物

イタチ

1 火	16 水
2 水	17 木
3 木	18 金
4 金	19 土
5 土	20 日
6 日	21 月 敬老の日
7 月	22 火 国民の休日
8 火	23 水 秋分の日
9 水	24 木
10 木	25 金
11 金	26 土
12 土	27 日
13 日	28 月
14 月	29 火
15 火	30 水

写真③

（メッセージ）

林業女子会@山口で行ったツリークライミングの様子を撮影した写真です。国立山口徳地青少年自然の家にある大きなクヌギの木が舞台です。大人９人、子供５人の合計１４名でツリークライミングを体験しました。

最初にクヌギの木の下でツリークライミングの歴史やルール、遊んでもらうクヌギの木の説明を講師から聞いて、いざ挑戦！！最初は恥ずかしいのか「やりたくない」といって他の遊びをしていた子供たちでしたが、大人が楽しんでいる様子を見て「僕もやりたい！」と積極的に参加するようになりました。お母さんや講師に手伝ってもらって少しずつ登っていましたが、いつの間にか自分の力で輪っかに足を通して高いところを目指そうとしていました。

不安定な体勢で一生懸命登ろうとする姿に思わずシャッターを押しました。子供が成長している瞬間を取れたように思います。木の上から見るいつもと違った景色、木と一体になれたような感覚は大人の私も大変感動しました。

森は大人に童心を思い出させてくれる場所であり、子供を成長させる場でもあると感じました。